

避難所開設訓練

第一薬科大学が23日実施

第一薬科大学では、かねてより新型コロナウイルスと地震や災害が複合的に発生するケースを想定し、新型コロナウイルス感染症対策を念頭において災害対策の周知や啓発に取り組んでいる(本誌3152号他)。

同大学は、美野島公民館職員、自治協議会役員、美野島地区防災委員、自治連合会役員、市の防災担当職員ら計約20人とともに、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所開設訓練を、一時避難所である福岡市美野島公民館で8月23日10時半から行う。

同大学の職員は、避難所における感染症対策のために、参加者に対して手袋や防護服の着脱方法、避難所の衛生環境の確保の他、被災者の健康状態確認(バイタルチェック)の方法や十分な換気の実施やスペースの確保方法などの実地訓練を指導する。

また、避難所を一般避難者用、体調不良者用の部屋単位で分け、入り口で防護服、フェイスシールド、マスクを着用し、模擬被災者に体温や体調を確認してもらい、発熱のある人、感染者と濃厚接触があったと申告した人を体調不良者の部屋へ輸送する手順を確認する。同大学では「被災者の安心に貢献したい」としている。

AIを活用

薬局の在庫効率向上

㈱ユニテックソフトウェアリサーチはクラウドコンピューティング等の先進的な技術に取り組んでいる㈱ビッグツリーテクノロジ&コンサルティングと、AIを活用した保険薬局の在庫適正化ソリューションの実用化に向けたパートナーシップを深化することで合意した。8月4日に発表。

保険薬局は、医薬品の供給を担う医療機関として多くの種類の医薬品を備えている。そのため、保険薬局の薬剤師は処方箋を応需した際に、欠品を発生させぬよう発注して受入検品し、管理を行うという負担を抱えている。過剰在庫にならないよう適正な発注をする実務経験も求められている。

これらを軽減するAIソリューションを実用化することは、薬剤師の間接的業務時間を削減して服薬指導の時間に割くなど、薬剤師業務の「モノから人への転換」の加速につながる。

両社は2018年6月にクラウド等の技術において、戦略的パートナーシップ構築に合意しており、先進のICTで保険薬局の課題を解決するために協業を継続してきた。保険薬局における在庫適正化のAI活用を拡大のために、発注精度の向上を図り、実用化に向けたアプリ開発を進める。

老いも若きも、皆の健康長寿の講座(2)

「がんと難病」から新型コロナウイルスへと急遽転換

この講座で取り上げた初回のテーマは「うけ」の良さそうな「骨」としたが、第2回のテーマは当然のことながら「がん」と「難病」になるはずだった。何故なら、昨年末の令和元年12月10日、厚生労働省が「全ゲノム解析」によって「がん」と「難病」を対象とした創薬の研究や診断・治療法の開発を加速させると発表していたからだ。「がん」には小児がんも含まれ、さらに「難病」にはパーキンソン病や筋ジストロフィーもあるのだから「老いも若きも」の講座にぴったりのテーマだった。

ところが、今年の正月に新型コロナウイルスが登場し、「あれよ、あれよ」という間にパンデミック的に感染拡大して事情は一変してしまった。そして、新型コロナウイルスの「本性」が前代未聞・未曾有の途轍もなく巨大な疫病だと分かったのだ。

つまり、最近よく耳にする言葉、時空の大転換期を意味する「シンギュラリティ・Singularity」もあるらしいことが分かったのだ。

もしそうなら、時代は今後完全に変わり、元には戻らない。一体全体どんな時代が変わってしまうのか、見当もつかない。

というわけで、講座の第2回のテーマは「新型コロナウイルス禍」関連となる。そうと決まれば、この事件では治療薬がないことが目下の決定的弱点なので、本講座の論点も新型コロナウイルス肺炎の「治療薬の未存在」となる。

早速だが、スパコンこと、スーパーコンピュータ富岳が、米・中国を尻目に計算速度世界一となったばかりだが、この富岳を使って、抗ウイルス薬や抗がん剤など2000種余りの既存の薬を対象に、色々な作用を計算して予測した結果、新型コロナウイルス感染症の治療薬の候補となる既存薬を数十種類見つけたと、理化学研究所(理研)と京都大学が7月3日に発表した。

人類の大敵、新型コロナウイルスに対して理研と富士通という日本企業が共同開発したスパコン「富岳」の大活躍。日頃の鬱気分も一掃の快挙である。

ご意見や質問を歓迎します。

naturin@coralocne.jp

三輪 亮寿(弁護士・作家)